事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の	有無 有 ▼		電話 042 (769) 8281
担当部課名	管理部 ▼	学校施設	課 ▼	計	画 班 ▼
事務事業名	学校トイレ検討経費			事業コード	14121

1 総合計画における位置づけ

15 年夕	第 / 音	人間性豊かな子どもを育成します	車光即松午舟
以 束 名	寿 4 早	人間性豊かな士ともを育成しまり	尹耒用知千戌
基本施策名	第 1 節	ゆとりある学校教育の創造	10 - 年度
施策名	第 2 施策	小・中学校教育の充実	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

2 実施根拠及び関連法令等

(1)事業の目的		(2)対象(誰、何)
学校生活の中でのトイレの役割りを重視し、現状のいわ		平成元年以降に大規模
児童生徒が利用したくなるような雰囲気をもったトイレへ	、と充実・整備を図る。	改修を実施した学校を除
		く、小学校21校、中学
		校13校の児童、生徒
		対象 22,465人
(3)平成13年度事業の内容	(4)総合計画・実施計画にる	おける概要
・「学校トイレ整備検討委員会」の開催 ・モデル校の設計委託(小学校、中学校各1校)		
	(5)個別計画の概要	
	計画名	
	計画年次年	度~ 年度

4 評価指標

指標名	モデル校の設計予定校数に対し て、設計が済んだ学校の割合	
指標式	設計済み校/設計予定校×100	
指標設定の意図	学校トイレの充実に向けて、モデル校の設計を行う。	

5 目標と実績 (金額単位:千円)

,								_ (巫田干山・1)、	,,
	/	平成11年度	平成12年度	平	成13年度(訂	平価文	付象年度)	平成14年度	
		実績	実績	実績		目標		目標	
	指標			а	100	Ь	100		
	指標			C		a			
	指標			е		f			
	決算 (予算)額				1,155		1,200		
事	人員・時間数		0.7人	1	.08人	1	1.08人		
業	人 件 費		589		9,094		9,094		
表費	その他経費								
	合 計	0	589		10,249		10,294		0
,	持定 財源								

6 個別評価

6 個別評								
(1)達成度	₹·・・目標をどれだけ遺	『成したか	١					
評価	A:達成している	('	100%)					
A ▼ B:一部達成していない(100%)			80%)	= 、	ω≖ _ተ	11.16 =	100.0%	
,			\	_ ,	, 0, 1, 2,		100.070	
	C:達成していない	(80%>)				1	
a	100.0	100.0%	C		-× 100=		е	× 100=
b	100.0	100.0%	d		× 100=		f	× 100=
理由:	めざし、その改	きに向けて	「学校ト	イレ検討委員会」等の	検討結果に基づく設			
(2)必要性	・・・・時代変化に適応	た事業に	力容か					
	A:適応している			チの巾でのし	1.の役割	1た耂う	スト功美け必要で:	ちスレ タ ラス
					活の中でのトイレの役割りを考えると改善は必要であると考える。			
(2)4又(文)	・効率性・・・費用対効	田什亞」	ヒか					
				- +日 +共 7 6 7 生 吉 3	出し ナバンフ	-+ <i>~</i> ~	ァナコト/ターナフ ー レーバー	ヨナー・ロスジークス:文本ナー
評価 A ▼	A : 妥当である B : 一部妥当でない	理由:		、祝侯以垣争 整備工事を行		. 9 🔨 (、を以修りることが呈	ましいが、経済性を し
	C:妥当でない	- /n -bil	() 10 - + 10		<u> </u>		_ 1 135 	
)代替性・・・県、民間と							
	A:代替の可能性ない B:代替の可能性低い	理由:	市立小「	中学校である <i>1</i>	こめ、市が	実施し	する。	
	C:代替の可能性高い							
(5)市民流	請足度・・・対象市民の	満足は得	られている	るか				
評価 A ▼	A:満足できる B:一部満足できない	理由:	現状のに	1わゆる3 Kトイ	イレの改修	であるフ	ため、市民の満足は	得られると考える。
,, ,	C:満足できない							
(6)有効性	・・・・当該事業は上位の	の施策を	宝現する	トで有効か				
評価	A:有効である	理由:			がおという	: 洋スト	・で 学校トイLの女'	実、整備は有効であ
	B:一部有効である	连四.	ると考える		子(又土/白で	IC Ω T	. C、子似 m レの元:	天、罡伸は有効での
A 🔻	C:有効でない	ł	ると考える) ₀				
	こ、有効 こない				*=-	↑ ↑ III	<u>.</u>	
証価 バ	ランスチャート ^達	成度			成果向上	の余項		
піщ/ (A	_					説明:	
					<u> </u>	る	設計においては、	成果向上の余地は
	В	+	V == 14				考えられない。	
	^{有効性}		必要性		🗹 な	: 61		
	C	† //						
					コフ 1 7 / 4	늘스地		
		×			コスト改善	等 尔地	1±¥ ==	
	/ C	ļ \			_	_	説明:	
	市民満足度		経済性·	かな性	<u> </u>	る		コスト改善の余地は
	В	+ /	114.14	XX-112			考えられない。	
					マな	: 11		
	A	+						
	事業0	O代替性						
7 総合評(
HHII								
	AAA ▼	他自治						
評価	1	体の類						
ят іщ								
		似事業						
	<u> </u>	との比						
7	後の進め方	較						
	継続		学坊し	/1.沈修に白	ナアの真な	<u> </u>	成13年度で完了した 1000年度で完了した	
	見直し		- 1X 1	イレスドに円) ての最高	l lst 🕂 li	以り午皮(元)のは	-0
	兄旦∪	÷× n□						
	廃止	説明						
>	完 了							
8二次評価	正おける変更点							
			_		_			